

# アイソジオメトリック解析における基礎的研究

050500406 山口 大介

## 論文要旨

3D-CAD では NURBS (Non-uniform rational B-spline) を用いて形状が表現されている。一方、有限要素法では、領域全体で連続、要素内部で低次多項式の基底関数が使われてきた。本研究では、3D-CAD と数値解析のデータ構造を同一にすることを目指して、NURBS を基底関数にした Galerkin 法による有限要素法解析プログラムを開発した。

**NURBS 基底関数:**  $p \in \mathbf{N}$  (正整数),  $\xi_i \in \mathbf{R}$  ( $i = 1, 2, \dots$ ) ( $\xi_i \leq \xi_{i+1}$ ) とする。次の  $N_i^p : [\xi_i, \xi_{i+p}] \rightarrow \mathbf{R}$  を B-spline 基底関数という。 $p$  を次数,  $\xi_i$  をノットという。

$$N_i^0(\xi) = \begin{cases} 1 & (\xi_i \leq \xi < \xi_{i+1}) \\ 0 & (\xi < \xi_i, \xi_{i+1} \leq \xi) \end{cases} \quad N_i^k(\xi) = \frac{\xi - \xi_i}{\xi_{i+k-1} - \xi_i} N_i^{k-1}(\xi) + \frac{\xi_{i+k} - \xi}{\xi_{i+k} - \xi_{i+1}} N_{i+1}^{k-1}(\xi) \quad (1 \leq k \leq p)$$

$p \in \mathbf{N}^2, n \in \mathbf{N}^2, w_{ij} \in \mathbf{R}, (i, j = 1, 2, \dots), \xi \in \mathbf{R}^2$  とする。次の  $R_{ij} : [\xi_{i1}, \xi_{i+p1}] \times [\xi_{i2}, \xi_{i+q2}] \rightarrow \mathbf{R}$  を 2次元の NURBS 基底関数という。 $n_i$  を  $\xi_i$  方向の節点 (制御点) 数,  $w_{ij}$  を重みという。

$$R_{ij}(\xi) = N_i^{p_1}(\xi_1) N_j^{p_2}(\xi_2) w_{ij} \left/ \sum_{i=0}^{n_1} \sum_{j=0}^{n_2} N_i^{p_1}(\xi_1) N_j^{p_2}(\xi_2) w_{ij} \right. \quad \square$$

線形弾性問題の弱形式: 領域  $\Omega \subset \mathbf{R}^2, \partial\Omega = \Gamma, \Gamma_0 \subset \Gamma$  とする。外力  $P : \Gamma \setminus \Gamma_0 \rightarrow \mathbf{R}^2$  に対する変位を  $u : \Omega \rightarrow \mathbf{R}^2$  とする。 $\varepsilon(u) \in \mathbf{R}^{2 \times 2}$  をひずみ,  $E : \Omega \rightarrow \mathbf{R}^{2 \times 2 \times 2 \times 2}$  を剛性とする。 $P$  を既知として、次の  $u \in U$  を求めよ。

$$\int_{\Omega} E \varepsilon(u) \cdot \varepsilon(v) \, dx = \int_{\Gamma \setminus \Gamma_0} P \cdot v \, d\Gamma \quad \forall v \in U = \left\{ u \in H^1(\Omega; \mathbf{R}^2) \mid u = \mathbf{0} \text{ on } \Gamma_0 \right\} \quad \square$$

**NURBS を基底関数にした Galerkin 法:** 上記定義を用いる。領域  $\Xi = [\xi_{11}, \xi_{1n_1}] \times [\xi_{21}, \xi_{2n_2}] \in \mathbf{R}^2$  とする。形状近似関数  $x_h : \Xi \rightarrow \Omega$  と変位近似関数  $u_h : \Xi \rightarrow \Omega$  を次式で構成する。 $n$  を節点 (制御点) の数,  $\mathbf{x}_{ij} \in \mathbf{R}^2, \mathbf{u}_{ij} \in \mathbf{R}^2$  を  $x_h, u_h$  の節点値という。

$$x_h(\xi) = \sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} R_{ij}(\xi) \mathbf{x}_{ij} \quad u_h(\xi) = \sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} R_{ij}(\xi) \mathbf{u}_{ij}$$

弱形式の  $x, u$  に  $x_h, u_h$  を仮定すると次式が成り立つ。ただし、 $\mathbf{u} = (\mathbf{u}_{11}^T, \mathbf{u}_{12}^T, \dots, \mathbf{u}_{n_1 n_2}^T)^T$ ,  $\mathbf{v}, \mathbf{P}$  も同様,  $B, D$  は節点変位-ひずみ行列, 剛性行列,  $J = \det(\partial x / \partial \xi)$  である。

$$\mathbf{v} \cdot \mathbf{K} \mathbf{u} = \mathbf{v} \cdot \mathbf{P} \quad \forall \mathbf{v}_h \in U_h \quad \mathbf{K} = \int_{\Xi} B^T(\xi) D B(\xi) J \, d\xi \quad \square$$

本研究では、次の結果を得た。

- 上式を解くプログラムを開発した。 $K$  は、要素 (パッチ)  $[\xi_{ij}, \xi_{i+1j}] \times [\xi_{ij}, \xi_{ij+1}]$  ごとの積分に置き換えることができる。要素ごとの積分には Gauss の求積法を用いた。
- 節点挿入 (h 法), 次数の増加 (p 法), それらの組み合わせ (k 法) による解の精度評価を行った。